

こ いけまち あき ぼ じん じゃ
6 小池町・秋葉神社

小池町

当神社は明治21年(1888)の極楽寺の大火の際、御神体は遷宮して守られ、町内数度の小火にも大事に至らず、火伏に靈験あらたかで崇敬を受けている。



江戸時代後期、芦田家が祝殿敷地を寄贈し火防の神様として毎月神事を行っている。

例大祭 宵祭 6月17日 本祭 6月18日

むこうじま あき ぼ じん じゃ
7 向島・秋葉神社

向島

昭和17年(1942)5月に向島町内有志の寄付で現在地に建立された。現在地に移る前は福田家の北裏に大正末期頃まで祀られていたという。



静岡県春野町の秋葉山本宮からの勧請であり、石積み基壇の上に木造一間社流れ造りの祠が祀られている。基壇は130cm 四方、祠は縦横60cm、高さは90cmほどである。

しょういち い まわたいなり じん じゃ
8 正一位真綿稲荷神社 宮村町1丁目

明治21年(1888)3月、現在の大橋通りにあった「中村製糸工場」の敷地内に勧請。



工場でネズミが真綿をかじるので、ネズミ除けのために勧請されたことから真綿稲荷の名称がついたとされる。工場閉鎖後、昭和13年(1938)に現在の位置へ移転したとされている。

すず き い おりの はか・い おりれい すい
10 鈴木伊織の墓・伊織霊水

北源地

鈴木伊織頼常は松本藩主水野忠直の家臣で、役職は江戸詰小姓頭であった。貞享3年(1686)、安曇・筑摩両郡の農民一揆、世に言う「貞享騒動」が起こった。この一揆は藩の悪政に対して多田加助らの村役人が中心となり年貢の軽減を要求して行われたもので、結局失敗し、首謀者・加助らははりつけ、その家族は獄門極刑に処せられた。伝えるところによると、伊織はこの処刑にあたり苦心惨憺、義民助命のために奔走した人物であったという。

昭和50年(1975)に有志が伊織の顕彰会を結成した。顕彰会では墓域を改修し、義士の徳を顕彰するなどし、毎年10月3日の命日に法要を行っている。墓所の前の湧き水は「伊織霊水」とよばれ、多くの人に親しまれている。



なかじょうひがしたい 2 くまたか い な り じん じゃ
9 中条東第2・熊鷹稲荷神社

中条東第2

稲荷神は元来、稲を象徴とする穀霊神・農耕神。商工業が発達するにつれて穀霊神から生業守護神・福神などへ変化した。「熊鷹」という名の稲荷がなぜこの地に勧請されているのかは不明だが、5月と12月の2回、例祭が行なわれ、住民の交流の場となって久しい。



D 生安寺小路(しょうあんじこうじ)
町人町・本町から東へ入る小路名。かつては生安寺(現在は鎌ヶ崎に移転)を見通せることのできる小路であったため、この名がついたといわれる。
また、三月・五月には節供のひな人形を売る店が軒を連ねたので、ひな小路とも呼ばれた。

E 鍋屋小路(なべやこうじ)
町人町・飯田町の南端の角から西へ入る小路名。『古実伝連記』には、「鍋屋有之故鍋屋小路」というと、この小路の由来が述べられている。鍋屋とは鍋や釜を作る鋳物師職人のことで、四軒の鋳物師屋があったという。

F 源地(げんち)
ここは中世の頃、信濃守小笠原氏の家臣で、号を玄智といった河辺縫殿助の屋敷があった。その屋敷跡に玄智の号に因む「玄智の井戸」があり、「当国第一の名水」として知られていた。歴代の城主は「殊勝の水」として、制札を掲げてこれを保護し、藩主の用をはじめ、城下町の飲み水や、酒造用水にも使われていた。水源地という意味も加味して源地とした。